

令和5年9月20日

鳥取県教育委員会教育長 足羽 英樹 様

北栄町長 手嶋 俊樹

## 鳥取中央育英高等学校の存続についての要望書

仲秋の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より、教育振興並びに鳥取中央育英高等学校の教育活動につきましては、格別のご支援とご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、鳥取県教育委員会が策定された『今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針（平成31年度～令和7年度）』において「入学者数が2年連続して募集定員の3分の2を満たさない場合は、1学年2学級になる」との対応が示されており、鳥取中央育英高等学校も1学級減が懸念されます。

鳥取中央育英高等学校の入学者数は、令和2年度は126名、3年度は83名、4年度は79名、5年度は67名と定員を下回る状況が続き、仮に1学級減になると、高校に進学する生徒の多くが中部地区の出身であることから、北栄町だけではなく、中部地区の将来を支える人材・人口にも影響を及ぼし、地域経済の衰退につながるものと危惧しているところです。

このような中、昨年度から北栄町にプロジェクトチームを設置し、コミュニティスクールで高校の魅力化についての議論を行ってきました。今年7月には町が高校魅力化専門員を配置し、最近では高校魅力化へのふるさと納税の活用、外部人材との連携なども始まるなど、高校と町・地域が、より連携を深めながら、高校魅力化を一層推し進めているところです。鳥取中央育英高等学校で学んだ生徒の多くが地元で活躍し、地域を支えており、今後もそのことに大きな期待を寄せています。

つきましては、今後も鳥取中央育英高等学校の特色ある教育や地域連携の取り組みに重点的な支援をしていただくとともに、今年始まった3つの類型が定着する前のクラス減は行わず、今後の見直しにおいても今ある地域に存続させていただきましますよう、要望いたします。